



中村俊定文庫
文庫 18
669



雨も晴れ

あつちの

あつちの

あつちの

あつちの

何となくの鳥



あつちの果

あつちの果

あつちの果

あつちの果

あつちの果

菴かのき

いづれも ちかき 釣あは

と口とささく 遊く 起りしと
ろ ねあまきんととさうか
う 知日され 却のちさき
な ぬいし くらしき けい 侍

若あは 控とさき 菊 碗 な
う しばし 河ぬら 舟 酒さ
な ちし 子 ぬいし けい
よ ぬいし けい ぬいし けい
あ ぬいし けい ぬいし けい
さ ぬいし けい ぬいし けい

一 夢のうらみもなほ
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

さくら

夢のうらみ

さくら

さくらさくら



さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら
さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

佐を

全

宗子くわいお日沙の事くわい
海息しして字しるふを舟子
うらまはふかみつきしうらまは
一巻とひりぬ

相白阿りや机乃止の石川を桑

涼しきるるくわいしつる沙の靴

松乃寺名堂利かん糸通くわい

着白乃糸ふくまき道志川くわい

朝お月かきしそまきふさき

忘るお籠やし牛のまき都

着るも是れおくわい外小野の鳴

閑文

但志

車蓋

母人子

沙衣

古律

芦涯

生角お水けしお糸ふ怒る

世乃中ハ漢唐子の燈の光り

馬也相老ふる川きくわい

踏ふしそもきくわい大田志

月くわいお糸ふ本おしお風

残子くわいお苗生お糸ふおねる

予し川の瓶子酒をふさ

初日お日和しそくわいお脚

ち、海乃熾ひきくわい

白裳

そく

鞋方

魯衣

籠文

均路

糸風

瓶子

五草

定とて記をむさうとれねははて 斗宿

侍とて并一田子玉子 柳宿

一略

宿いしはふさく

夏は日やんはふのむすしん庵 白雲

世は庵のまもむきまわらふ 柳宿

ま乃月と幸はふ初を清く 古光

月と清く茶と庵のまもらる 孤山

るくく一庵は庵乃つては侍 何月

くふ賢一庵は高れ照るふが 菅之村

燈は花と事たふは庵乃光ふが 阿久

りふき一寺をむきあふん庵のぬ 竹崎

ふも山事ふは川

夕暮の恒ふさりうむせ車 貫子

林を亭は繁し

涼一はは河くくたに玉柱ふ 泊帆

すくはくまの

蘇尾の菊逢子もいぬを
百多新をふもふすふ旅源
す風や下ぬ系う門田う
一可也

一飲屋中

一ツ中子降子いふ一梅のを
初女か子時たうさふもとぬの色
去明りふ丈ひる一鴨牛
信ふうあう晴うと月日は
その花う中いサもやんこも
古碓

襦道花れ月やうんこも
たうう子やもふさういぬ娘とめ
多部の秋小社乃鏡まぐ照る
一飲屋

あゝ

海山やうね春風はたの夕阿の
け川走うう春風定うう時う
伊勢武志の阿くぬ説ん細けり
サキ一甚きて是も多うもは
一飲屋のいなり一飲屋やもは
玉屑
布巾
阿丸
吟路
44子

林火うらたけぬきまはれ様ふ
 生美酒うらきく飲くはなぬき
 香むらりや細き婦ふゆき
 水きの上りうらたけふはれ様
 空人の戸もあけうらたけふはれ様
 口切やまおろしうらたけふはれ様
 二人

春のよむ

多^{ウデ}塚^{ウデ}へ梅^{ウデ}うさきーれ玉^{ウデ}さ
 春^{ウデ}

木のむらりや梅^{ウデ}うさきの庭
 清い川つりそら梅^{ウデ}うさき
 術汲く池ふたたけり梅^{ウデ}うさき
 病ふもくさる梅^{ウデ}うさき
 碎く静くうらたけふはれ様
 風もよくもふめうらたけふはれ様
 鳴る木の白く梅^{ウデ}うさきの庭
 ねむくもふもく梅^{ウデ}うさきの庭

春のよむ

春^{ウデ}
 梅^{ウデ}
 古^{ウデ}
 竹^{ウデ}
 古^{ウデ}
 竹^{ウデ}
 古^{ウデ}
 竹^{ウデ}

くぬ日暮るふ冷きさるぬあふ^{伊予} 葉あは
際鳥ハヒやあふさうぬ夕の産 阿丸
く^阿く^あく^あく^あく^あく^あ 籠子のさる^阿 今^必
籠子啼やあふさうぬあふ^阿 玉井

くさく

る^阿く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 月^阿あ^必 芦^阿涯
く^阿く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 月^阿あ^必 担^阿月
阿^阿あ^必く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 古^阿紫
田^阿あ^必く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 河^阿長

一面のやうく^阿く^あく^あく^あく^あく^あ 山^阿あ^必く^あく^あく^あ 柳^阿松
あ^阿く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 鳥^阿山 嵐^阿江
仲^阿西^必乃^阿斜^必なる^阿や^阿梅^阿綱^必 里^阿松
あ^阿く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 小^阿あ^必く^あく^あく^あ 吹^阿風
あ^阿く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 酒^阿あ^必く^あく^あく^あ 巴^阿龍
あ^阿く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 存^阿の^阿さ^必く^あく^あく^あ 嵐^阿市
阿^阿く^あく^あく^あく^あく^あく^あ 海^阿あ^必く^あく^あく^あ 斗^阿月
海^阿あ^必く^あく^あく^あく^あく^あ 一^阿あ^必く^あく^あく^あ 胡^阿蝶

音^阿あ^必く^あく^あく^あく^あく^あ

女^阿 尼^阿

らぢく戸はさく人やは好の月
またくちふ山より出く好の月 尾 好の月

秋の字ははさくねを

はあし風のまきれむさ記海 信を 秋の風 旧玉

秋何くくさる乃たゆこ小秋の風 八岐 ちり長

神秋はは胡ふ夕あおさくくはを 信を 秋風

く秋乃秋柳の影おきまき 信を 秋風

秋くくくくくくくくくく 信を 秋風

秋くくくくくくくくくく 信を 秋風

あふふふふふふふふふ 信を 月峰

あや風やさ秋ハハ秋ハハ秋ハハ 信を 出卯

同もはら

あやさくくくくくくくく 信を 月峰

こ日月や麻ほのうなる山乃地 信を 草二

あさきやあさきのむくくくく 信を 龍文

あさきやあさきのむくくくく 信を 龍文

あさきやあさきのむくくくく 信を 龍文

川板の音よりくくくくく 信を 木欠

よる乃がむめ

み乃たしもの〜船乃三葉 信毛 二柳

〜牛〜や吹掃さ〜其日月 五六

からねのや〜世に果れ垣一五 五六

流〜下〜草吹度乃やうたし 吟詠

志〜葉〜も〜た〜た〜た〜た〜た 聖律 三葉子

くさく

遠深〜り〜遊〜び〜福〜を〜と〜ま〜す〜

信乃〜い〜な〜は〜く〜く〜も〜あ〜る〜葉 月屋

こ〜み〜船〜や〜艾〜一〜う〜と〜と〜初〜向〜 伊勢 獲を

〜た〜海〜し〜し〜世〜と〜有〜く〜海 如三葉

牙〜掃〜の〜糸〜所〜く〜解〜ま〜お〜ろ〜 実行

〜並〜もの〜色〜を〜ま〜す〜し〜落〜の〜色 女 前風

妹〜ふ〜飯〜乃〜ま〜う〜耳〜た〜ら〜し〜 想 鉅作

志〜り〜川〜や〜梅〜小〜と〜事〜ふ〜と〜田〜の〜松 歎路

志〜后〜船〜や〜入〜日〜小〜動〜く〜川 柳 東島

務〜業〜や〜文〜と〜梅〜と〜辨〜水〜の〜音 吟詠

天人地

皇天何々々々々々々々々々

道々々々々々々々々々

閑文

明々々々々々々々々々

由基血

天々人乃歎

自志何々々々

俚文

耳之秋水哇系

御詔書

御詔書林 菊舎太兵衛

京三條通寺町西

天保二辛卯春

杉延米之

